

2024年度 聖隸こども園ひかりの子 自己評価 結果

【聖隸こども園ひかりの子 教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指します。

- *愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- *一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- *自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- *在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てできるように支援する。

聖隸こども園ひかりの子では、「保育者のための自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行いました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の質の向上のため、次年度の取り組みにつなげていきたいと思います。

	自己評価結果・課題
第1章 総則 1. 教育及び保育の基本と目標 2. 特に配慮すべき事項 (1) 教育及び保育の配慮 (2) 健康支援 (3) 食育 (4) 特別支援教育・障害児保育	<ul style="list-style-type: none">・前年度同様、全体的には「理解している」と回答している。保育実践の中で「計画的に物的・人的環境などを構成しているか」の問い合わせに対して、8割の職員が「はい」と答えているが、「いいえ」の職員もいることから、職員間の思いの差があるかもしれない。言語化して確認する必要性を感じる。・全職員ができている、理解していると回答しているところも、具体的な部分での確認はしていく必要がある。・発達の連続性に関するところは、入園前の情報や、昨年度までの状況の把握がしきれないことがあることが分かった。子どもの育ちの理解をどのようにすべきか、職員一人ひとりの理解を深めたい。・全体的に法令に関する理解は低いため、引き続き周知し、その都度の確認が必要である。
第2章 子どもの発達	<ul style="list-style-type: none">・全体的に「はい」の回答が多い項目であり、また、「いいえ」と回答する職員においては、意識が高いからこそその回答であることが伺える。「はい」と答えたものの、項目を具体化して考えると、園としてはまだ課題が多いと言える。職員間で、一つひとつの項目を具体

	的に言語化していくことが必要だと感じる。
第3章 「ねらい」及び「内容」 1. 保育内容「健康」 2. 保育内容「人間関係」 3. 保育内容「環境」 4. 保育内容「言葉」 5. 保育内容「表現」	・「健康」について、表面的なことだけでなく、深く考えることができてきたことで「いいえ」の回答が増えていると感じる。園内の安全についても同様。園児の発達もふまえて考慮したい。 ・「人間関係」は、「未回答」も見られた。保育経験や担当のあり方においてばらつきが見られた。しかし、園として大事にしたいところであるため、日常の保育の保育の中でどのように意識されているか、実践されているかを具体的にしたい。
第4章 低月齢児の保育実施上の配慮事項 1. 乳児期の保育に関する配慮事項 2. 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	・全体的に、理解したうえで保育が行われていることが伺われる。しかし、「個別」での関りが不十分であると感じている職員がいることが分かる。乳児期からの育ちがその後につながっていくことをよく理解し、子どもの育ちを継続的にみていくことを共有する。
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項	・必要に応じて作成しているため、「はい」と答えられる項目も全体的には多いが、各歳児の発達を確認し、また個別の発達を把握した内容を深めるということについては、見直しが必要である。
第6章 研修と自己評価	・自らが何を学びたいか、職員自身が自己の課題を認識することが改めて必要であると感じる。
第7章 子育て支援	・経験を重ねることで、自信がついてきた部分がある一方で、苦手意識がある職員も多い。園内の連携を一層図りつつ、知識を身につける機会も必要である。

＜総評＞

- ・自園の理念や育ってほしい子どもの姿を言語化したり、職員で共有したりする機会を持っているものの、この結果からは「自分の保育の意図をわかりやすく保護者に説明すること」に自信を持てない職員が多いことが分かった。自分のしている保育にどのような意味があるのか、大切にしていることは何であるのか、言語化する機会をさらに持つ必要がある。
- ・実施職員全員が「はい」と答える箇所もあるが、その意味合いを改めて言語化して共有する必要性を感じる。実際に行えていること、分かっていても行えていないこと、また理解の度合いが様々であることを理解し、対応する必要性を感じる。